オブジェクション１４５

冷や水編

岡森 利幸

本編は、次の８項目からなる。

①アイスバケツキャンペーンの冷や水
②コンビニ店長を土下座させる方法
③積乱雲と爆撃機「銀河」
④富田選手のバッグに盗品カメラを入れた人物
⑤非常任理事国選挙の必勝法
⑥閣僚の靖国参拝にいらだつ中国
⑦退位しなかった昭和天皇
⑧エアバッグの異常爆発

①アイスバケツキャンペーンの冷や水

以下は、新聞記事の引用・要約。

【毎日新聞夕刊 2014/8/21 社会
山中教授、孫社長、ブッシュ前大統領も、氷水をかぶりＡＬＳ支援をしている。】

【毎日新聞朝刊 2014/8/22 スポーツ
氷水かぶりチャリティーは、指名を受けた人が支援団体への寄付か氷水をかぶるかを選び、次の候補者を指名する。】

氷水の入ったバケツをひっくり返し、頭からどっぷりとかぶり、全身ずぶぬれとなる映像……これは何かの罰ゲームに違いない。彼らはどんな悪さをしたのだろうか、と始めて見た人は疑ってしまうだろう。まるで切腹劇を見ているようだ（皮肉をこめて）。その哀れな姿が動画で撮影され、ネットに乗せられるのだから、少々恥かしい。不特定多数の人々がその姿を見ることになる。

夏場、風呂場で冷水をかぶるとき、私は、ある種の

悲壮な決意を必要とする。我が家の太陽熱給湯システムの余り水（湯が出てくるまで洗面器一杯分の水が出る）をそのまま下水道に流してしまうのはもったいないので、頭から浴びた。２０度前後の水でさえ、裸の体をかなり刺激するから、氷水の冷たさは想像できる。蛇足ながら話をすれば、私はもう４０年近く前のこと、２月の寒い夜に、修養の一環として鉢巻（はちまき）をするなど、それなりの身なりをして伊勢の五十鈴川にどっぷりとつかり、禊（みそぎ）をしたことがある。

水をかぶれば、少しは身を清めることになるのだろうけど、その氷水は零度近い温度だから、それをかぶるのは、いくばくかの報酬をもらえると仮定しても、ごめんこうむりたい。

これはアイスバケツキャンペーンといって、難病のＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）患者の支援をしているという団体へ寄付を募るための宣伝行為だ。一種のパフォーマンスであり、それに賛同した有名人たちが行った一連の騒動なのだ。そうそうたるメンバーが氷水をかぶっている。そのメンバーに入るだけでも名誉なことかもしれない。彼らは、宣伝のために金をもらっているのでなく、逆に寄付を出している。パフォーマンスするにしても、金がかかっている。

衆目を集めるのに十分なパフォーマンスだった。有名人がこんなことをするという、マスメディアが飛びつくような話題づくりだったから、宣伝効果は抜群だった。アイツがやったから、オレもやろうというような、ほとんど付和雷同的な行為になり、連鎖した。

そのやり方は、昔流行（はや）った「幸福の手紙」そっくりだ。〈文面を書き写し、複数の知人へ投函すること、さもなければあなたに不幸が訪れるだろう〉などと、脅（おど）すように書かれた手紙やはがきが舞い込んできたものだ。それを受けた人は、たたりを恐れてその指示に従い、複数の知人などへ書いて出すから、広範囲な連鎖反応を起こしていた。

このキャンペーンには、「支援団体へ寄付しないなら、氷水をかぶれ」という脅しが根底にあって、ほとんど強制的なニュアンスを持っている。指名された彼らの多くは、支援団体へ寄付するか氷水をかぶるかのどちらかを選ぶことになっているのに、両方を選択しているから不思議である。次の順番として超有名人が超有名人を指名するものだから、引き受けざるを得ない。難病対策に後ろ向きの態度をとったら、何を言われるかわからない。断りでもしたら、後ろ指を指され

そうだ。「オレが指名したのに、つれないやつだ。難病患者を見て見ぬふりをするようなやつとは思わなかった。あいつは、金をたんまり持っているくせに寄付もしないケチな野郎だ」と……。これでは幸福の手紙のたたりより怖そうだ。

その本人たちは、はでな慈善事業のキャンペーンに一役買ったというささやかな快感に浸ることができたようだ。指名されるのは主に有名人だったから、自分が有名人であることを誇らしく思ったりして……。世間に注目されたし、寄付行為という善行を施したことで自己満足する。こんなことをしては恥ずかしいと思った人はいないようだ。

---

②コンビニ店長を土下座させる方法

【毎日新聞ニュースサイト 2014/9/10

恐喝容疑：コンビニ店長を土下座させた男2人を逮捕した。その様子を動画でネットにのせた。

コンビニ店長の態度に因縁をつけ、商品のたばこを脅し取ったとして、大阪府警茨木署は自称無職の中村剛容疑者（39）＝東大阪市俊徳町5＝ら9日に出頭した男2人を恐喝の疑いで逮捕した。店長らに土下座させる動画をネットに投稿したとみられ、中村容疑者は「ネットで騒ぎになり怖くなって出頭した」と話しているという。

他は不動産会社社員、野仲史晃（ふみあき）容疑者（46）＝大阪府門真市北岸和田1。逮捕容疑は8日午前11時半ごろ、大阪府茨木市横江2の「ファミリーマート茨木横江店」の事務所で男性店長（25）や父親のオーナー（51）に「誠意見せんかい」「謝るの普通は手ぶらちゃうわな」などと怒鳴り、たばこ6カートン（2万6700円相当）を脅し取ったとしている。

茨木署によると、8日午前1時ごろ、来店した中村容疑者の知人が「空のペットボトルに水を入れて」と要求、断った店長と口論になった。午前3時ごろ、中村容疑者が店に来て謝罪を求めた。早朝に男女3人と再び来店し、長時間怒鳴り続けたという。中村容疑者らはその様子をスマートフォンで撮影した。

オーナーは取材に「店を守りたい一心で謝罪した。事件で食事も喉を通らないほど参った」と話した。】

【毎日新聞夕刊 2014/9/12 社会

コンビニ恐喝で、大阪府茨木市のコンビニで男性店長（25）らが商品のタバコを脅し取られた事件で女2人を逮捕した。逮捕者は計4人になった。】

自分たちの行為をわざわざ映像にとってネットに載せたのは、それを自慢したかったからだろう。それを見た大多数の人が騒ぎ出したものだから、警察の知るところとなり、4人が恐喝容疑で逮捕されたわけだ。

その映像は不鮮明ながら、音声付で動画がネットに流された。哀れにも、屈辱的にも、店長ら店側の3人は、そろって員土下座させられた上に、タバコ計6カートンがせしめ取られた。1カートンはタバコ10箱入りで、計3万円相当だから、店側としては大きな損害だ。金品の損害だけではなく、オーナーが「食事も喉を通らないほど」というから精神的なダメージが大きかった。

主犯格の男（46）は、不動産会社の社員で、見かけ的には普通のビジネスマンだが、言いがかりをつける口調がすさまじい。早口でまくし立てる。たたみ込むように言葉を発する。些細なことにけちをつけ、あるいは根も葉もないことにイチャモンを付ける。

それでも、一人ではラチがあかないと見るや、店側の3人に対し、数で対抗するかのように、3人の仲間、一人の男と二人の女、を連れて戻ってきた。主犯格の男と3人との関係ははっきりしていないが、私にはおおよその見当がつく。男(39)は、ふだんから主犯格の男に金で雇われる形で、手先として動いていたのだろう。その男は、自分がコンビニ店とトラブルになったわけではないのに、さらに輪をかけて強烈な言い方でまくしたてる。恐喝を実行した容疑では、この男の罪が一番重くなくそうだ。男は、謝らなければ、嫌がらせをするぞ、と脅す。オレたちをなめんなよ、と強がって見せる。有無を言わせない強引な理屈で責め立てる。女たちには、「ワイの勇ましい姿を見せたるさかい、ちゃんと記録にとってな」などと言って、女の一人にスマートフォンでその様子を撮影するように指示したのだろう。

この男は一段と声を張り上げる。「店のおもてに出んかい！」（これはハッタリだ。実際に表に出て口論していたら、通行人に警察へ携帯電話ですぐに通報される恐れがあった）

店長が躊躇する間に、次の言葉を浴びせる。

「若い衆が店に車を突っ込むと言うとんぞ。なあに、かんたんやで、ブレーキとアクセルを踏み間違えれば

ええんや」

店主は、ニュースで知った同類の店舗に車が突っ込んだシーンを思い出し、震え上がる。

男は相手のちょっとした落ち度や言い間違いを徹底的に攻撃（口撃）する。言いたい放題、しゃべりまくる。ねちねちと、しつこく1時間半にも渡って、店長らを問い詰めた。

「おいおい、第一、接客態度がなってねえんだよ。これで、よくフランチャイズでやっていけるな。テメーらの地区の統括責任者の目は節穴かよ……」（店長の一番の弱みに付け込む。フランチャイズ本部に客とのトラブルが知られたら、店が取り潰しになりかねない）

ほとんど理不尽な理由を付け、けなしまくる。相手が口を挟もうものなら、条件反射のように、その言葉をさえぎる（相手の言い分を最後まで言わせないところがミソ）。問い詰めながらも、問いに対する答えなど期待していない。相手の答えを聞く耳を持たないのだし、常に反論を用意しているのだ。これでは、相手は言い返すこともできない。なまじっか口答えするなら、機関銃のように撃ち返えすのだ。怒声を張り上げ、罵詈雑言で追い打ちをかける。

店側は、ことを丸く収めるためにも、謝るしかない状況に追い込まれる。

「わかりました。……申し訳ありませんでした」

「なにー？　謝るんなら誠意を示さな、あかんで。ちゃんと詫びを入れるんや。あんさんはほんまの謝り方を知っとるんかいな。知らなあ、ワイが懇切丁寧に教えたる。うちらの流儀ではこうやるんでぇ。まず床に両ひざをつくんや。手のひらをつけて、八の字の形にしてから、頭を下げるんや。**おい！**、そこの店員たち、突っ立てないで、店長を見習わんかい！」

――このように進展したことが推測される。これは、そうとうに口論慣れした連中の仕業だ。彼らは、それを特技にしているのだ。それは、もはや芸の域に達しているのかもしれない。今回が初めての行動ではないだろう。彼らは口論すれば向かうところ敵なしで、何人もの人をやり込めてきた「歴戦の兵たち」だと想像できる。

ただし、彼らは、口では怒りまくっているが、心の中ではそれを楽しんでいる節がある。言葉によるけんかを楽しんでいる。自分たちの言葉の勢いが優位に展開していると見るや、冷ややかな目で笑い、ますます調子づく。相手をおとしこみ、自分たちが上位であることを再認識することで、自分の**優越感**がぐっと高ま

るのだ。相手が屈服し、謝る態度を示すならば、勝ちになる。土下座させることができれば、大勝利なのだ。高揚感の極みだろう。それに乗じて、金品をも手に入れることができる。戦利品と言っていい。ゲーム感覚だろう。

自分たちの言動を動画でネットに乗せたのも、自分たちの作戦の成功を自慢するためだ。悪びれもしない。タバコのカートンをせしめたのも、そもそも自分たちは被害者の立場だから、加害者から陳謝・示談の意味で「おとしまえ」をつけてもらっただけ、自分たちの言い分を通しただけ、という意識なのだろう。

彼らは、楽しんで文句を言いまくっている。威張り散らすことを楽しんでいる。下手に出るしかない人たちにイチャモンを付けまくって、わめき立てるのが楽しくて仕方がないのだ。「ターゲット」を土下座させることで、勝利の喜びを感じるわけだろう。おまけに金品がついてくる。それが彼らの**趣味**なのだ。こんな楽しいことは、もう止められない。

今回、彼らは店長らを土下座させたら、意気揚々と引き上げればいいものを、いい気になってタバコのカートンを巻き上げたので、警察沙汰になったのだ。

彼らは自己中心的で、善良な人々を食い物にしている。人間として最低の部類に属する。モンスターの部類に入るのかもしれない。彼らはやくざではなく、会社員というが、その実は、言葉巧みに高齢者をだまくらかして高額商品を売りつける悪徳業者のセールスマンだろう、と私は推測する。あるいは、部下を叱咤、だめ出しすることを得意にしているブラック企業の幹部社員だったりして。

事件の数日後、主犯格の男が所属しているという不動産会社がネット上に、この件で簡潔な詫び状を載せてきた。ん？、それだけ？　彼らの流儀で、誠意ある謝り方とは、土下座することではなかったか。会社幹部が土下座する姿を録画してネットに載せろ、とまでは私は言わないが……。

---

③積乱雲と爆撃機「銀河」

【毎日新聞朝刊 2014/12/7　一面・千の証言

１９４５年６月から出雲市の海軍基地に配属された元気象士官の増田善信さん（91）は、戦争末期に沖縄の米艦船を目指して飛び立つ爆撃機に航路の天候を伝えるのが任務だった。悪天候で戻れば貴重な燃料が無駄になるから、予報の間違いは許されな

かった。制空権を奪われて攻撃は夜間に限られた。攻撃は困難を極め、宮崎・都井岬を越えると、無線が途絶え始める。「やられたか……」。通信途絶は大部分、撃墜を意味した。

ある日、「前方に積乱雲」と連絡を入れ、引き返した1機の爆撃機「銀河」があった。飛行隊を統率する中佐に増田は怒鳴られた。「貴様！　予報を間違ったな。なけなしの燃料だぞっ」

そんなはずはない。数日後、機が引き返した奄美大島付近の気象データをひそかに取り寄せた。積乱雲はなかった。資料を持って中佐の部屋に押しかけ、「私は間違っていない」と訴えた。しかし、中佐は「もういい」と遮った。そしてぽつりと言った。「帰ってくることもあるんだよ」

増田さんは自分を恥じ、悔いた。死の恐怖にとらわれた操縦士の「ウソ」を証明してしまったことに、痛恨の思いを抱き続ける。「誰だって死にたくはない。自分だってそうだ。中佐もうすうす気づいていたんだ」】

記事には、なぜ爆撃機が任務を果たさずに帰ってきたかの理由について、死を恐れたからだろうとしているが、私はもう少し補足したい。

夜間、前方に積乱雲があったならば、爆撃できないだけでなく、鈍重な爆撃機自身が気流に巻き込まれて墜落の恐れがあったわけだから、Uターンして戻るしかなかった。しかし、気象データから、「前方に積乱雲」というのはウソであることがわかる。軍隊でそんなウソをつくのはとうてい許されないことだろう。増田さんはそのウソをあばいてしまったわけだ。

中佐の「帰ってくることもあるんだよ」は、私には「ウソをつくこともあるんだよ」というように聞こえる。そのとき中佐自身はウソをとがめる気になれなかったようだ。一旦は気象予報が当たらなかったことで予報官を怒鳴りつけたが、しばらくして、その中佐も、機長の連絡がウソだったのではないかという疑念を持ち始めたと考えられる。

なぜ爆撃機の機長はウソをついたか、いくつか要因が考えられるけれど、この場合、「前方に敵戦闘機の群れを見たから」と推測するのが妥当だろう。夜間とはいえ、天気はよかったと言っているから、敵機の群れが星空の一角にいたのを、いち早く見つけて引き返したわけだろう。さいわい、その追跡から逃れることのできる距離にいたと思われる。しかし、それを理由

にして帰るわけにはいかなかった。敵を恐れて引き返せば、「敵前逃亡」になってしまうから、軍隊では重罪だ。敵戦闘機群を積乱雲に置き替えて報告したものと思われる。

この時期に、日本の爆撃機１機が敵の高性能戦闘機の群れに遭遇すれば、確実に仕留められた。単に遭遇というより、敵側はレーダーで探知し、待ち構えていたのだ。たとえ味方の戦闘機が護衛していたとしても、それは頼りにはならなかっただろう。だいたいが、爆撃機単機で作戦行動するのが無謀の極みなのだ。その様子は、アメリカ軍に言わせると、「七面鳥狩り」だった。茶化して言えば、ジャップのもたもたした爆撃機を撃ち落とすのは、チョー楽しいゲームだった。

そのまま飛行すれば、爆撃任務の遂行どころか、敵に武功を上げさせるだけだし、燃料より貴重な爆撃機を失うことになるから、引き返した機長の判断は正しい。そして乗員全員の命を救ったことにもなる。単なる死の恐怖だけからではなく、総合的に判断した結果だろう、と私には思える。

しかし、その判断には、苦渋が付きまとう。いっそ死んだほうがましだったかもしれない。「前方に敵戦闘機の群れ」で引き返そうが、「前方に積乱雲」という見え透いたウソで引き返そうが、軍隊では、お決まりの鉄拳制裁が待ちうけていたはずだ。部下たちにも連帯責任が負わされる。あるいは、たとえ一度はウソが通っても、二度と使えない。ウソは、悲壮な覚悟をしていた乗員たちの延命措置（そち）に等しかった。

＊銀河の概要……双発爆撃機。空技廠で開発、１９４３年８月より中島飛行機で生産開始され、終戦まで１００５機作られた。最大航続距離：５３７０ｋｍ、最高速度：５４８ｋｍ／ｈ、全長：１５ｍ、全幅：２０ｍ、全備重量：１０，５００ｋｇ。爆弾倉に魚雷１発（または５００ｋｇ爆弾２発まで）搭載、機首と後部に２０ｍｍ旋回機銃を備える。乗員３名。

---

④富田選手のバッグに盗品カメラを入れた人物

【毎日新聞夕刊 2014/9/27 一面、社会

第１７回アジア大会の日本選手団に冷や水が浴びせられた。競泳男子の富田尚哉（なおや）選手（25）が窃盗容疑で地元警察の事情聴取を受けたことが明らかになった。日本選手団は「重大な規律違反があった」として選手団から追放することを明らかにした。

富田選手は２５日午前１１時ごろ、文鶴（ムンハク）水泳場で、取材陣の区域にあったカメラ本体を盗んだ疑いがもたれている。防犯カメラに移っており、同署は２６日夜、富田選手を任意同行。容疑を認め、かばんからカメラが発見された。調べに対して富田選手は「カメラを見て、ついほしくなった」と供述した。２７日、日本オリンピック委員会は当地で記者会見し、日本選手団の青木剛団長は「大会が盛り上がっている中で、このようなことを起こしてしまい、心からおわびを申し上げますと述べ、約１０秒間深々と頭を下げた。青木団長は「人のものを盗んではいけないという初歩的で当然のことができなかった。行動規範の以前の問題」と苦渋の表情を浮かべた。会見後、青木団長らは韓国メディアの個室を訪問して謝罪。自身を含め選手団と富田選手が所属する日本水泳連盟の役員の処分は日本に帰国してから検討する。】

【毎日新聞朝刊 2014/10/31 社会

日本水泳連盟は３０日臨時理事会議を開き、「カメラ窃盗」の富田選手に対し、１６年３月まで選手登録を停止する処分を正式決定した。「皆さんにご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ありませんでした」と改めて陳謝した。水連によると、カメラマンが示談条件として「選手生命を奪うような処分をしないでほしい」と望んだため、１６年リオデジャネイロ五輪出場に支障ない処分となった。】

【毎日新聞朝刊 2014/11/7 社会

富田選手が６日、名古屋市内で記者会見を開き、無実を訴えた。「面識のないアジア系の短髪の男性に左手首をつかまれ、無理やり、持っていたバッグに（カメラを）押し込まれた」と主張。選手村に持ち帰ったことを「ゴミと勘違いした」と説明した。】

1．団長の謝罪

インチョン・アジア大会日本代表競泳選手として出場した富田選手が、何とカメラを盗んだ容疑で警察に捕まえられたというのだから、びっくりだった。誰よりも、びっくりしてあわてふためき、韓国側の関係者たちに平謝りしたのが、日本選手団の責任者たちだった。彼らは富田選手が警察にいる間も、関係筋に陳謝しに回ったというし、２７日には日本の記者たちの前でお詫びのパフォーマンスを最大限の形で演じてみせた。違和感を覚えさせる光景だ。一台のカメラの盗難

で、「重大な規律違反があった」とするのは、いかにも大げさすぎる。そもそも、なぜ本人でなく代わりに彼らが「見えない相手」に向かってこんなに謝らなければいけないのか、見ているわれわれには、謝られる理由など、すこしもない。われわれは迷惑もしていないのだ。被害者はたった一人、カメラを盗られた韓国記者だけだろう。ただし、それも戻されたから、実質的な被害はない。その間、カメラが使えず、アジア大会の写真を撮りそこなったという機会損失はあったにせよ……。

「申し訳ありません。よおくしかりつけますから、今日のところはご勘弁を……」などと、土下座するほどの謝り方だったとされる。でも、子供じゃあるまいし、それは本人が謝らなければ、意味がないところだ。選手団幹部は、監督責任を感じてのことか、面倒見がよすぎるというか……。悪さをした子供の親が出て行って、先方の親の家に謝りに行く図とそっくりだ。ふてくされた子供の頭をこづいて、無理やり頭を下げさせたり……。

警察沙汰の不祥事発生で、選手団幹部の頭に浮かんだのは、何よりも、「恥」という意識、「日本代表チームの恥」ひいては「国辱」という言葉だろう。選手を任命した自分たちの責任を問われたり、指導する側の自分たちが叱責されたりしたらどうしようか、という不安だろう。

国際大会出場するような選手は、競技の代表というだけでなく、日の丸の旗と「日本のモラル」を背負っているわけだ。

冨田選手は、選手資格が剥奪されたのだから、以降は、冨田氏と表現しよう。

一連の司法手続きや冨田氏に対する処分がすんなりと進んで、一件落着と思っていたところ、約一カ月たって、冨田氏が記者会見に臨み、「カメラは、第三者が自分に手渡したもので、自分は盗っていない」と言い出したのだから、意外な展開になってきた。

2．事件を振り返って

9月25日11時過ぎ、報道用のカメラ一式が置きっぱなしにされた無人の水泳場の一角、誰もいなくても、監視カメラの目が光っている。なぜか高価なカメラが長時間放置されていた。

その持ち主、韓国記者がカメラを取りに来ると、長大な望遠レンズだけが残され、カメラ本体がなくなっていることに気づく。盗難事件の発生だ。

水泳場は、日本選手が利用していたことは、スケジュール的にわかっていたのだろう。日本選手の一人が疑われることになる。プールサイドには監視員はいなかったが、監視カメラが見ていた。監視カメラの映像記録から、冨田氏に疑いがかけられた。

プールサイドの監視カメラは、高精細機能は求められないだろう。くまなく、広く全体が見渡せるレベルでよいはずだ。万が一のため、プールでおぼれる者がいるのを発見できるものであればいい。人物を特定することよりも、人がいることを確認できるレベルでいい。つまり、監視カメラの映像記録は、犯人を特定し、犯行現場を捕らえて、動かぬ証拠というような、決め手となるようなものにはならない。日本でも、監視カメラの映像で犯人として逮捕したが、誤認だったというケースが報道されたことがある。

それでも、警察に確信が得られると、踏み込んで調査することになる。9月26日夜、冨田氏の手荷物・バッグの中を捜索すると、やはり、問題のカメラが出てきたのだ。冨田氏が重要参考人から、容疑者になった瞬間だろう。

後は、自供を引き出すだけになった。警察は自供しやすい環境を整える。「持ち主に謝って返却すれば、窃盗未遂の罪だけであり、たいした罪ではない。罰金を払えばすむ。しかし、これは自分のものだと言い張ったり、ごまかそうとしたり、ウソの証言などしたりすれば、罪が重くなるぞ。虚偽罪だ。それだけでなく、取り調べも長期にわたることにもなる。法廷にでも持ち込めば、面倒なことになるぞ。日本選手団に合流することなど、難しくなる。当分、韓国にいてもらわなければならん。つまり、お前はいっしょには帰れなくなるのだ」などと諭したはずだ。下手な通訳（？）を介してだったから、どうしても時間がかかった。富田氏はいつ選手村に帰れることになるのか心配になったという。

問い詰めると、冨田氏本人が「自分が入れた」とすんなり自供したことになっている。これで、紛れもなく、冨田氏が犯人と断定されたことになる。

3．第三者の可能性

富田氏が後から言い出したように「第三者」がいたというのは、私は疑わしいと思っている。そんな人物が防犯カメラに映っていたなら、警察は真っ先に捜査するはずだ。そんな人物は映っていなかったから、プールサイドをうろうろしていた富田氏が疑われたと私

はみる。取材陣の区域にまで、防犯カメラが視野に入れていたのかは定かでないが、取材陣の区域でだれかがカメラ本体をレンズから外すような決定的場面は、映り込んでいなかったとしても、第三者の存在が確認されていない。

富田氏が言うように第三者から「ゴミ」を手渡されたとして、それが高級なカメラであると認識していなかったのだろうか。２５日の午前中に手渡されたものが、２６日の夜になって警察が捜査したとき、バッグにあったのを発見されたわけで、その間、盗品とも疑わずにいることが変だ。仮に第三者がいたとしても、どんなに言い逃れしようとも、これでは立派な共犯者になる。

そもそも、それは出来心だったと思える。放置されたような高級カメラが目の前にあり、このまま、自分が持ち去っても、誰にも知られないだろう。

「誰にも知られなければ、犯罪にならない。神のみが知ることになるのだ」とささやきかけられる。

「うん。万が一ばれても、こんなもの、返せばいいんだろう？　ほんとにほしければ、金で買うよ。こんな中古でなく、最新の高性能機をね。でも、買うより手っ取り早いじゃないか」

――よく、万引きのドキュメンタリーで、ばれてしまった万引き犯が、「金を払うよ。金を払えばいいんだろ」などとふてくされると、店主は鬼のような顔を近づけ、机をバーンと叩き、「ばれたら、金を払えばいいってもんじゃないんだ！」と、怒鳴りつける場面となるものだ。「え？　サングラスをしたアジア系の見知らぬ男に渡されたものだと？　見え透いたことを言うんじゃねぇ！」　バン、バーンと机を二回たたいたりして……。

しかし、警察で「ボクがやりました。罰金でも払えばいいのだろう。そんなもの、もう返すよ」と言えば、取調官の鬼の顔が仏になるのだ。本人が認めれば、しめたものだ。捜査は終結と言っていい。現物のカメラを指差す写真を取られたり、供述書なりにサインすれば、「もう返っていいよ」ということになる。軽い罪であれば、司法手続きを簡略化できるのは、どこの国も同じであろう。

４．代償

９月２９日、仁川（インチョン）地検が罰金１００万ウォン（約１０万円）の略式起訴処分をした。

富田氏は、すぐに罰金を払い、水連立会いでカメラ

マンとの示談をし、司法手続きをすべて済ませた。ある意味、交通違反の反則金を払い終えたときのように「やれやれ損をしちゃったな。しかたないや」という、少々落ち込んだ気分で、アジア大会に出場する出番もなく、帰国の帰途に着くはずだった。

まず、自分が選手団から追放の処分を受けたことに気づかされる。いままで大会の参加に関して、選手団ですべての費用を出してくれることになっていたのに、〈今日から、ここにいたいなら宿泊費は自分で負担しろ、帰りたいなら自費で航空券を買って帰れ〉と言われてしまう。

罰金だけではすまない、大きな代償を払うことになったことに気づかされる。

選手団から追放に引き続き、幹部たちの謝罪と処分決定が続く。

・９／２７　日本選手団の青木剛団長と所属のデサントが謝罪した
・９／３０　日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）橋本聖子選手強化本部長が謝罪
１０／１　所属のデサントが謹慎処分
１０／３　日本水泳連盟の鈴木大地会長が謝罪
１０／７　所属のデサントが解雇処分
１０／３０　日本水泳連盟が１年５カ月の登録停止処分決定（2016 年 3 月 31 日まで）
１０／３０　旧所属のデサント社長が謝罪

スポンサーであるデサントに解雇されたことや、強化選手から外されることは、自分の生活基盤を失うことであり、彼の経済的なダメージは大きい。おそらく、年間１０００万円以上の減収になることだろう。選手生命としても絶たれたも同然だ。もう「失うものは何もない状態」だろう。

そして、富田氏は思うのだ、〈あの時、警察で犯行を認めなければ、どうなっていたかわからない〉。早く帰りたい一心で、安易に警察の口車に乗ってしまったことを後悔するようになる。彼の心に浮かんだのは、第三者の存在だろう。

〈日本に帰るのが少々遅くなっても、証拠不十分で処分保留などの決定になり、事件がうやむやになっていたかもしれない〉

〈罰金を払った上に、こんなことになるなんて……。カメラも元の持ち主に返されているのに、なぜオレだけこんな目にあわなければならないのだ？　不公平すぎる！〉

〈疑われた元になった防犯カメラの映像にしても、あいまいではないか。プールサイドを歩いていた映像があるだけだろう。オレは日本チームのユニフォーム・ジャージを着ていたし、どこを見てオレだとわかるのだ。歩き方がオレに似ていたぐらいだろう。防犯カメラの角度では、取材陣の区域にまで視界が届かないはずだ。そこで誰がレンズを外してカメラ本体を持ち去ったか、犯行の一部始終など、映っていないのだ。神のみぞ知ることなんだ〉

〈自供がなければ、オレは無罪になるかもしれなかった。こんな処分を受けなくてすんだのだ。自分の自供など撤回しよう〉

〈第三者が盗んだものを、オレは手渡されただけなんだと、法廷で裁判官が納得の行くような説明をすればいいんだ。法廷には警察の通訳よりましな人がいるだろうし……〉

---

⑤非常任理事国選挙の必勝法

【毎日新聞朝刊 2014/5/29 国際

来日中のハシナ首相は、来年（２０１５年）秋の国連非常任理事国選挙でバングラデシュが辞退することを示唆した。安倍首相は、日本と議席を争うバングラデシュの経済インフラ整備のため、今後４～５年で最大６０００億円の経済支援を表明している。】

バングラデシュが辞退することを、日本政府は手放しで喜んでいることだろう。

しかし、ライバルの国を金で辞退させるというのは、みっともないことだ。選挙の買収行為そのものだから、ほとんど不正行為だ。国連での非常任理事国の選挙では、日本がそれをおおっぴらにやっている。それを禁止する規定がないとしても、こんな公然と買収まがいのことをしていたのでは、総会で多数の国に反発を食らって、落とされたりしないものだろうか。バングラデシュにだけでなく、過去にも、非常任理事国の選挙に絡んで日本がモンゴルに経済援助したことが私の記憶に残っている。それで中国などに指摘・非難されたりしているのだ。

最大６０００億円の経済支援とは、日本国の財政が危機的状況にあるというのに、気前がよすぎる。国の財政負担でしわ寄せされているわれわれ国民としても、納得いかないところだ。他国の支援のために、国の借

金である国債をさらに上乗せして発行することになるわけだ。非常任理事国になるために、そんな余計な大金を使う意味があるのだろうか。それ以上の実利があるのだろうか。非常任理事国となるのには、それだけのメリットがあるのだろうか。

安全保障理事会の理事国になるにしても、〈日本はアメリカに付随するだけの国だから、理事会に出席しなくていい〉などとも中国に言われてしまっている。日本が理事国になるのには、アメリカに同調することで、理事国の数の勢力分布でアメリカの発言力を高めるという意味があるというわけだ。安全保障において日本の、アメリカへの偏重外交の一環であるらしい。

日本には、国連の安全保障理事会（常任理事国5、非常任理事国10）の非常任理事国として長年やってきた実績がある。10期、20年だ。非常任理事国は国連総会での選挙により決定される。任期は2年で、連続して立候補はできず、2年間の空白を置かなければならないが、機会あるごとに立候補して理事国になっている。日本がふくまれるアジア地区では、2カ国だけという制約もある。すんなりと理事国になるためには、他に立候補する国がないことだ。

たとえ立候補国が林立しても、日本がアジア地区で理事国としてふさわしい国であるならば、正々堂々と選挙で選ばれればいいのだ。自国の安全だけを考えればいい、というような利己的な国ではだめだろう。

日本は非常任理事国では飽き足らず、常任理事国になることを悲願としている。日本は国連分担金を積み上げたりして10年以上前から常任理事国入りを目指しているが、反発も受けている。ここでも、従軍慰安婦やらの人権侵害や歴史問題が噴出す……。

バングラデシュとしては、とにかくにも非常任理事国になりたい日本の足元を見て、その立候補の意志を表明したにちがいない。立候補辞退と引き換えに、高額な経済援助を求めたことになる。結果的に、バングラデシュ自身にとっては、どうでもいいような、非常任理事国という「しょうもないポスト」と引き換えに、最大60000億円の経済支援を引き出せたのだから、大満足であろう。彼らのほくそ笑む姿が目に浮かぶ。

今後、日本から経済支援を受けるには、非常任理事国への立候補をちらつかせればいいことになってしまう。

⑥閣僚の靖国参拝にいらだつ中国

【毎日新聞朝刊 2014/9/10 総合・経済
ＮＰＯ調査、日中の相手国の印象について、日本側、過去最悪、中国の印象良くない９３％。中国側は８６．８％】

【毎日新聞夕刊 2014/9/13 憂楽帳
タクシー運転手に「日本人か？」と聞かれると、今も少し身構える。なぜ日本を嫌うかと聞くと、「絶えず挑発してくる」】

【毎日新聞朝刊 2014/10/19 総合
靖国神社の秋季例大祭に女性３閣僚が参拝した。高市早苗総務相、山谷えり子国家公安委員長、有村治子女性活躍担当相の三人。高市総務相「国策に殉じた方々の御霊が安らかであるように祈った」
中国外務省は、さらなる参拝を控えるよう自制を申し入れた。中国の一部のメディアは高市総務相を「侵略者を拝む常連」などと批判した。】

政府高官が靖国神社に参拝することは、中国政府の神経を逆なでする行為となっている。中国側に言わせれば、それは挑発なのだ。

〈靖国神社には、死刑になった「極悪Ａ級戦犯」が合祀されているのに、彼らを敬うように参拝するのはけしからん〉というのが、中国政府が参拝に反対する言い分だ。でも、それは口実的な理由だ。日本が中国に敵対的行為をしているものとして、日本を糾弾するための「よい材料」にされている。

神社で参拝というきわめて宗教的な儀礼に、中国が強硬に反対することには理解しにくいところだ。極悪Ａ級戦犯が合祀されているといっても、それはほんの一部であり、靖国神社には多くの戦病死者、戦争の犠牲者たちが祀られている鎮魂のためのモニュメントである。それがなければ、多くの悪霊・怨霊がさまよい出たりして祟られるかもしれない。何百万柱という怨霊がさまよい出たとしたら……。

「死者の霊を尊崇して何が悪い！」というのが、われわれ日本人の共通的な思いだろう。

中国政府がなぜこんなに強硬に主張するかというと、言い出したら後へ引けない中国政府のプライドに関係する。世界第二位の大国、中国政府があれほど反対しているのに、極東の島国、日本の政府高官ごときがそれを無視して参拝することに、彼らには我慢できないことなのだ。中国政府が参拝するなと言っても、日本政府がそれに従わないことが、彼らの神経を逆なでる。

つまり、日本の政府高官に「靖国を参拝するな！」と強く求めているのに、聞く耳を持たないごとく参拝することの態度が、中国政府にとって傲慢に見えるのであり、挑発的行為そのものなのだ。

日本政府高官が「犠牲者への尊崇と敬意をあらわす」だけだといくら説明しても、そんな説明を聞く耳を持つ人たちではない。中国人民の最高指導者たるべき彼らのプライドの前には、戦病死者の霊魂に崇拝する気持ちなど知ったことではないのだ。靖国神社に中国政府の威信がかかっている。

中国が騒ぐから、合祀するのをやめて、彼らをどこか別の神社に分祀しろという意見も出ている。それは中国との外交面を配慮しただけだ。中国の怒声に脅されて分祀したりすれば、いかにも屈辱的だけれど、それもひとつの方策だろう。戦後、戦犯たちを合祀したことに一番の問題がある。合祀において遺族会の強い要望があったとされるが、外交面での配慮不足だったことになる。中国政府は、それで外敵・日本をバッシングする口実にもしているのだから、そんな口実を与えない必要もある。

要するに、政府高官が靖国神社に参拝しないということだけで、中国政府の面子が立ちそうだから、それで妥協したらどうか。つまり、政治家たちは遠慮して、大臣級のポストを退いたときに、いくらでも、気がすむまで靖国神社を参拝すればいいだけの話だろう。

---

⑦退位しなかった昭和天皇

【毎日新聞朝刊 2014/8/22 一面
宮内庁が「昭和天皇実録」を完成した。６０冊。
毎日新聞朝刊 2014/9/9 一面、特集、社会
昭和天皇実録、退位問題で揺れる思い。退位しなかった理由のひとつにマッカーサーから退位しないでほしいという極秘の希望があったことを挙げている。
靖国不参拝経緯では、Ａ級戦犯の合祀が理由だと天皇自身が話したとする高田メモを追認している。】

【毎日新聞朝刊 2014/11/1 社会
木島等・元長崎市長が死去した（92）。
「天皇の戦争責任はあると私は思います」
「戦争終結を早く決断していれば、沖縄、広島、長崎（の惨状）はなかったと思う」】

【Microsoft Encarta 2006
１９２６年１２月２５日、大正天皇の死去で皇位を

継承し、２８年に即位。以後、太平洋戦争終結まで日本の最高統治者として政治にかかわり、神格化された絶対的存在でありつづけた。戦争指導の最高責任者の立場にあったが、東京裁判ではアメリカの方針により戦争責任を問われなかった。４６年に人間宣言をおこない、翌年発布の日本国憲法によって天皇は日本の象徴とされた。】

昭和天皇（迪宮裕仁（ひろひと））の戦争責任論は、私の中では、くすぶり続けている。そして、もっと重要な問題は、あの時代に起こされた戦争終結のタイミングに関してだ。戦争末期での日本軍や民間の人々の惨状を知れば知るほど、「もっと早く終わらせていれば……」の思いを強くする。元長崎市長の木島等さんと同じ思いだ。戦争の終結に関して、天皇には、終わらせる責任の一端があったはずだ。一端どころではなく、彼は、軍部を統帥する最高指導者の地位にあり、日本軍総司令官だった。昭和１６年１２月１日の御前会議で開戦を決め、勅書にサインをした。その後の御前会議でも逐一戦況の報告を受けていた。もっとも重大な責任を負っていたことになる。トップが何の責任も取らないのはおかしい。

御前会議では、天皇はただ話を聞いているだけで、たまに言葉を発しても質問するぐらいだったという。

２０１４年にようやく『昭和天皇実録』が発刊されて、多くの事実・記録が明らかになってきた。分厚すぎる書物なので、私にはとても全部を読めないが、私が知りたいと思うのは、彼が「もっと早く終わらせていれば……」の思いを持っていたのかどうかだ。戦闘での勝敗は明らかなのに、降伏をずるずると遅らせたことが問題なのだ。従来の報道などからでは、それに対するコメントはまったく聞こえてこなかった。実録といっても、不都合な部分は隠されたり、曲筆されている疑いが残る。

責任の取り方として裕仁氏自身、退位する意向を持っていたという。それをほのめかしていたが、結局はその意志を貫くこともできなかった。諸般の事情により、退位もせず、東京裁判にも罪を問われず、〈すべては軍部がやったこと〉になってしまった。軍部を統帥していたのは、いったい誰だったのか。退位するどころか、戦争責任を問われて東京裁判にかけられても当然のところだった。

当時国際的に、天皇は、何と言っても日本の最高指導者であり、ヒトラー、ムッソリーニ、ヒロヒトと、

並び称される独裁者の範疇にいた。当時の欧米の諷刺画にそれがよくわかる。総理大臣だった東条英機などは、天皇の足元にも及ばない「臣下」に位置づけられていた。もし裁判になったら、東条英機より刑が軽くなるとはとても思われない。

日本の国内では、〈軍部がすべて悪かった〉ことにして、納得させられるかもしれない。しかし、直接戦火を交えた連合国だけでなく、日本の侵略行為によって蹂躙され、荒れ果てた太平洋地域の、韓国、中国、東南アジア、オセアニアの人々は納得するだろうか。納得していない表れのひとつが、靖国神社であり、慰安婦であり、日本が固有のものと主張する島々の領有権だろう。彼らの目には、天皇制は帝国主義（あるいは軍国主義）の国家の残像としていつまでも映っていることだろう。天皇はその象徴的存在だったから、帝国主義がそのまま温存されたようにみえてしまう。天皇が大臣を任命するなどしているから、形式的にも、政治に影響力を残しているようにみえてしまう。その大臣が靖国神社に参拝するなど、彼らにとってみると、時代錯誤的なことなのだ。彼らがいつまでも過去の歴史にこだわるのも、日本が戦争の責任をまともに取らなかった「ツケ」だろう。

われわれ日本人としては、戦犯たちも戦争の犠牲者たちの一人だったという思いがどこかにあり、靖国神社に合祀することを許容している面がある。死刑になった彼らよりもっと責任ある地位にいて、陸海軍の絶対の権限とされた統帥権を持ち、宣戦の詔書にサイン・押印した者が、戦争責任をまったく取らず、のうのうと生きていたことのほうが、よほど問題があろう。せめてものけじめとして、彼が退位することが責任のとり方だったはずだ。

退位しないとしても、何らかの責任の取り方があったはずだ。日本の歴史上では、戦いに敗れた天皇や上皇は、ほとんど遠流（おんる）になっている。あるいは自害したとされる。歴史的にも、戦いに敗れた天皇は、皇位を剥奪され、遠流（おんる）されるのが相当だろう。

天皇が退位する意向があったのに、それを押しとどめたのは、ＧＨＱからの要請によるものだったことが一番有力な要因だろう。天皇を東京裁判にかけなかったのは、すべてＧＨＱ（連合軍総司令部：戦後処理のために日本を統治した）の決定によるものだろう。裁判で「責任はない」と裁定されるのなら、それなりに納得できるのだが、裁判もされなかったのは、政治的

な裏取引があったとしか思えない。

なぜＧＨＱが彼の退位を押しとどめたのか、なぜ彼を東京裁判にもかけなかったのか、それは、ＧＨＱが占領政策を推し進めるためには、天皇の権威を利用するほうがよい、と判断したからと推測できる。天皇制の下で、体制的にも精神的にもまとまっていた多くの日本人たちに、ＧＨＱが天皇に肩を並べる存在、あるいはそれ以上の存在であることを見せ付けるのだ。そうすれば、日本人たちは、ＧＨＱに抵抗せず、おとなしく従うだろうという目論見があったわけだ。数々の戦場で死ぬまで抵抗してきた「血気盛んな野蛮人たち」（おそらく、当時の彼らの目には、日本軍兵士は現代のイスラム過激派よりもひどい存在に映っていた）を御するためには、神格的存在である天皇を利用するとよい、という入れ知恵があったのだろう。ＧＨＱにその利用価値を見出されたわけだ。

確かに、８月１５日の玉音放送は絶大な効果を発揮した。玉音放送は、その音声をラジオに流したものだ。

彼は退位する機会を逸してしまい、時の権力者、ＧＨＱの本部に呼び出され、マッカーサー元帥とツー・ショットを撮られたりして、生き恥をさらすことになった。彼にしてみれば、これが責任の取り方だったのかもしれない。

右の写真は、昭和２０年９月２７日、昭和天皇が、マッカーサー総司令官との会談のため、ＧＨＱ本部（東

京の第一生命ビル)を訪れた際に撮影された。そして、その画像を新聞に流して公表した。マッカーサーの権力を見せ付けるのに好都合な写真になった。

１０００年以上にわたって歴代天皇は、時の権力者・実力者の意のままになってきた。古代の卑弥呼（皇祖神の天照大神に対応すると考えられる）の時代から近代の明治・昭和にかけて、時代の節目につがれて最高ポストに収まるという奇妙な存在になっている。最高ポストでありながら、基本的に自分では政治的判断を一切しないし、口出しもできない。

今は「国民の象徴」という最高ポストに収まっている。今般、政府・自民党の中で天皇を国家元首にしようとする動きがあるが、このままでは、ますます「名ばかりの最高責任者」になるのだろう。実際の実力者が後ろにいて実権を握っている方式だ。政治家の世襲が問題視されている世の中であるにもかかわらず、究極の世襲（万世一系）である天皇制は千代に続く。

ちなみに、昭和二十二年五月三日に施行された日本国憲法では、「第三条、天皇の国事に関するすべての行為には、内閣の助言と承認を必要とし、内閣がその責任を負う」。つまり、天皇には何の責任もないことを明記している。

---

⑧エアバッグの異常爆発

【毎日新聞夕刊 2014/10/22 総合
米、エアバッグ欠陥で、タカタとホンダを提訴、計４人が亡くなったとされる。】

【毎日新聞朝刊 2014/11/8 経済
タカタが０４年欠陥を把握か。
エアバッグの欠陥問題で２００４年に社内実験で欠陥を把握しながら、米当局への報告を怠って隠したと米紙ニューヨークタイムズ（電子版）が6日報じた。】

【朝日新聞朝刊 2014/12/19 経済
タカタ製リコール、国内３００万台超、エアバッグ部品不足。
不具合の原因、膨張装置（インフレーター）に使われている火薬が想定を上回る力で爆発して起きている。「硝酸アンモニウム」は水分を吸って変質しやすいという。「経年変化」が原因だと指摘する専門家もいる。】

【毎日新聞朝刊 2014/12/6 経済

トヨタが、アメリカと同様に原因特定を待たずに国内リコールを実施する。「深刻な事故」を予防する。岐阜県関市の自動車解体工場で１１月６日、異常な爆発音とともに、金属片がエアバッグを切り裂き、フロントガラスを粉々に砕いた――タカタ製エアバックの破裂に居合わせた工場長が証言した。工場では年間８０００～９０００台の廃車が運び込まれ、エアバッグを作動させて抜き出す処理を実施している。この日、通常よりも何倍も大きい爆発音が工場内に響いた。異常爆発があったのは２０１０年以降、今回が３回目だという。エアバッグを作動させる際は５メートル以上離れるなど安全対策を採っていたため、けが人はなかった。５日後にトヨタから調査員が工場を訪れ、問題の部品を持ち帰った。】

1. エアバッグが人命を奪う

人命を守るためのエアバッグが逆に人命を奪うとは、皮肉なことだ。衝突事故の際、エアバッグが瞬時に作動し、膨らんでクッションの役を果たす仕掛けだが、その際に金属片を飛ばしてしまうという。それが乗員の体に突き刺さったりして死に至らせるケースが発生していたことが明らかになった。これは車のリコールとしては、世界最大規模になるだろう。エアバックが作動したとき、金属片が飛び散って体を傷つける事態を考えると、相当に怖い。多くの車のユーザーが、リコールが完了するまで、怖い思いをしながら運転しなければならない。

今回のリコールの原因は、高温多湿の場所で作動させると、爆発力が高まり、エアバッグを膨らますだけでなく、車の部品を破壊して飛び散らせてしまうことだ。金属破片は、エアバッグ装置自身でなく、エアバッグを組み込む車体側の部品の一部というから、車体側部品の強度にも問題があることになる。エアバッグと車体の組み合わせとなるから、特定の車種だけに被害が偏るようだ。ホンダ車でそれが多く発生しているという。統計的に立証されるのかは不明だ。

爆発力が高温多湿に左右されやすいものを使ったことが敗因になるのだろう。タカタは、この射出薬について、ダイナマイトの原料として多く使われている火薬を、コストが安いからという理由で、採用したのだろう。

タカタも、ホンダもそろって、長年隠ぺいしていた

事実も浮かび上がってきている。

湿度によって爆発が強力になるという。湿度が射出薬に影響しないようにすることぐらい簡単にできそうに思える。射出薬が密封されていないためだろうか。せんべいなど菓子類さえ、湿気対策がされているというのに……。

エアバッグは高価なものだから、メーカーとしても大変な負担になるだろう。何しろ対照の車種や台数が多い。複数の車のメーカーに関係する、世界的な規模のリコールだ。あまりの数の多さに、メーカー側の負担が大きいことで、リコールに同情的な論調のメディアもある。しかし、同情には値しない。原因特定を積極的にやらず、ほったらかしにしていたためのツケがたまったのだ。

一般的に、エアバッグが作動した場合、エアバッグ一式の交換だけの費用だけでも、３０万かかるといわれている。ただし、その交換は非現実的とも言われている。つまり、そんな車は廃車にされるのがオチらしい。エアバッグが作動したような事故の場合、外観だけなら修理できそうだとしても、車体内部にゆがみが入ってしまうことがあり、車は「大破」の部類に入れられてしまう。修理は価格的にも技術的にも困難とされる。エアバックは、車が大破しようと廃車になろうと知ったことではなく、人命優先の安全装置なのだ。

最近の車は、事故の衝撃を吸収させるために壊れやすくなっており、車全体で、車内の人身だけが守られる構造であればよいとされる。つまり室内空間は強化されているが、その他の部分は強度を低める傾向にある。特にバンパーについては、昔のように車体を守る役目はいつのまにか免除され、衝撃を少し吸収すればよいものになり、ほとんど形だけのものになっている。特に前部バンパーについては、ボディーやフロント部の飾りと見分がつかない車も見かける。また、歩行者をはねた場合など、致命傷を負わせないような配慮のデザインも必要とされる。

ともかく、エアバッグは、搭乗者を守るための有力な装置としてすべての車に標準装備されている。有効な装置とみなされている。車の事故は、車の前面に何かと衝突するケースがほとんどだから、搭乗者は、前面のガラスに頭や体をぶつけることが多い。特に運転者はハンドルに胸をぶつけ、大きな傷害を負う。その衝突のクッションの役目をなし、傷を低減するためにエアバックはある。

エアバッグが登場したての頃、火薬を使うことに危

惧する声があったことを記憶している。交通事故という危機的状況を制するために、火薬を導入することの、危機感だった。これによってかなりのスピードで衝突しても、人命が救われるのだから、車がますます高性能になるわけである。若者が荒っぽい運転しても、死ぬようなことはなくなるとすると、怖くないのかもしれない。

「弊社のエアバッグにそんな目くじら立てなくてもいいじゃないか。弊社のエアバッグで何人もの命を救ってきたんだ。たまたま飛び散った破片で死ぬようなことは、交通事故の発生に比べると、確率的にはずっと少ない。たまたま破片に当たって死ぬ人は、運が悪かったのだ」という声が、私の頭の片隅から聞こえてくる。

2．解体工場で異常爆発が**再現した**

フロントガラスを粉々に砕いたとは、相当強烈な爆発だったことがわかる。これは、エアバッグの破裂などと表現するより、**爆発**なのだ。昨年１１月の例では、０３年生のトヨタ車で、助手席用エアバッグが異常破裂したものだ。

リコールするにしても、「調査リコール」の名目だ。その原因がいまだに特定できていないことが、私的には気にかかる。科学技術敵的な興味にもつながる。フロントガラスを粉々に砕くほどの異常爆発がタカタ製エアバックでまれに起きるという事実は確かである。それがなぜ解明できないのか、もどかしいかぎりだ。原因がわからずに交換しても、直っていなければ、徒労になるだけだろう。被害も迷惑も拡散してしまう。

タカタ製エアバックだけに使用されている膨張剤は、通常、比較的ゆっくりと燃焼し、エアバックを膨らませるガスを出すだけなのに、ある条件で急速な反応が起きてしまう。燃焼というより、一気に反応が連鎖する爆発になったわけだ。急速に反応する化学変化のしくみは、何だろう。専門の化学者なら、すぐにわかりそうなものだ。膨張剤の硝酸アンモニウムが怪しい。硝酸アンモニウムに、ある変化が加わると、異常爆発するという現象に的をしぼっていい。

硝酸アンモニウムは、広く使われている爆薬の原料なのだ。軽油と混合すれば、立派な爆薬になる。１９５０年代からダイナマイトを押しのけて、これが安価で、たいそう強力なものだから、爆薬として広く使われて来てきたという。

タカタの幹部などは、高温多湿の環境に置かれると、

それが発生しやすいと考えて、アメリカでは高温多湿の地域に限定して優先的にリコールを行なおうとしている。ところが、高温多湿でない地域でも、異常爆発が見られることがあるので、高温多湿だけの条件ではないのだ。

原因が特定できず、もたもたするぐらいなら、硝酸アンモニウムなど「安い爆薬剤」を使うのを即刻停止して、他のエアバック・メーカーが使用している膨張剤に切り替えるべきだろう。

関市の自動車解体工場の例での確立を概算すると、1台の廃車で運転席と助手席側の2式のエアバッグを処理したとすると、

x＝0．0000088　つまり、この工場では、約113000個のタカタ製エアバッグを処理したとき、1つが異常爆発したことになる。確かに、まれなケースには違いない。5，650台のタカタ製エアバッグ搭載車が、エアバックを作動させる事故を起こせば、1回の割で異常爆発が起きるわけだ。金属片はどこに飛ぶかわからないから、助手席のエアバッグが運転者を傷つけることがありうるし、逆のケースもありうる。ひとつでも異常爆発すれば、車内にいた者はだれでも危険にさらされる。エアバッグが作動する件数を世界的に考えると、何万台もの事故件数だろうから、やはり、まれなケースとは言えなくなる。

計算コーナー

年間平均処理車台数：n＝8500

処理年数（2010－2014）：y＝5

タカタ製搭載車の割合：t＝0．4

1台あたりのエアバッグ搭載数：a＝2

トータルの異常爆発回数：m＝3

とすると、次の式で異常爆発の確率xが求められる。

x＝m／nyta